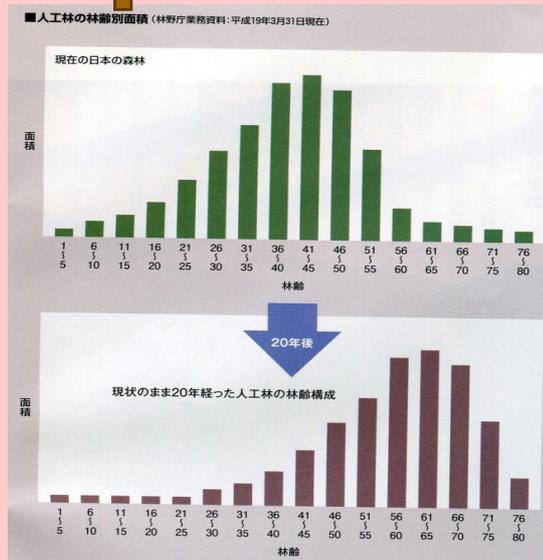


# 礼文の森から

宗谷森林管理署  
礼文森林事務所



## 国産材を使って森林整備を進めましょう



皆さんは、国産材を使うことが森林整備を進めることにつながるのをご存じでしょうか。

日本の人工林（木を植えて造った森林）は収穫期（日本の林業では、木材として使いやすい林齢は40～60年生と言われています）を迎えているのに収穫されない現状にあります。

その理由としては、価格の安い外国産材に押され国産材の需要が低下し、日本の林業が低迷していることや、ここ30年くらいで国内の住宅事情も変わってきて、従来の木造住宅が減ってきたという社会生活や木材需要の変化も挙げられます。

収穫のために伐採を行ってもその後の植林等の費用で採算がとれず赤字になってしまうため、木を伐らなくなり、林業経営がうまくいかなくなります。

20年後には使いやすい木が少なくなります



そのため日本の森林が荒廃し、山崩れ、崖崩れ等の山地災害が多く発生するなど、森林の公益的機能の低下が目立ってきています。

＊木を伐ることが環境に悪いことと思っている方が多いかもしれませんが、人が育てている森林は、収穫すべき時期になったら伐って、使って、伐ったところに新しい苗を植えて、新しい世代の木を育てています。

林野庁はこのような状況を踏まえ、木材、とりわけ国産材利用の意義を広め、実需の拡大につなげていくため、平成17年度から国産材利用に関しての普及啓発活動を強化し、国民運動として「木づかい運動」を行っています。右のイラストは「木づかい運動」のシンボルマークです。



国産材の需要が拡大すれば日本の人工林から木が伐り出され、森林整備が進みます。森林整備が進めば森林の持つ公益的機能が発揮されます。健全な森林がCO2を吸収することで、地球温暖化防止にもつながります。

つまり、皆さんが国産材を使用することは、山地災害の防止や地球温暖化防止に寄与することになるのです。



では、国産材をどのような用途で使えば良いのでしょうか。次号から掲載していこうと思います。